



8月の園だより

令和5年8月1日
目黒区立中町保育園園長

プール開き以降連日の猛暑となり、プールや水遊びを存分に楽しむ子どもたちの歓声が響き渡っています。0・1・2歳児クラスは、テラスに洗面器や大きなタライを用意し水遊びやシャワーをして気持ちよく過ごしています。暑い日が続きますが、安全面に配慮し健康に夏を過ごせるようにしていきたいと思ひます。

今4歳児クラスでは、5歳児クラスの“縁日ごっこ”や地域のお祭りへ出かけた経験から“お祭りごっこ”がブームとなっています。子どもたちが考えたお店は、具材も豊富な手作りで『焼きそば・たこ焼き』の食べ物や『魚つり・ネックレス作り』の遊べる内容になっていて、元気いっぱい「いらっしゃいませー」と呼び込みをしています。事務所からわくわくして遊びに行くと、待ってましたとばかりに受付でチケットを渡してくれました。早速入り口から近いお店で焼きそばを買っていると「こっちの方がめっちゃおいしいよ」と隣のたこ焼き屋さんからも声が掛かりました。とてもおいしそうなのでどちらも買うと「ここで食べられますよ」と親切に席へ案内してくれました。小さいクラスの子もたちが遊びに来ると、「魚つりできますよー」と竿を準備し優しく手渡ししたり、ネックレスの作り方を丁寧に教えてあげる姿が見られ、とても頼もしく感じました。お祭りごっこは、子どもたちのやりたいことが次々に出てきているので、まだまだ続きそうに楽しみます。毎日の遊びの中で心を動かし、自分でやってみたいという気持ちを温かく見守り、楽しく遊べる環境を大切にしていきたいと思ひます。

《 行事予定 》

プール・水遊び終了

*蒸し暑い日はシャワーをしますので引き続きタオルの準備をお願いします。

身体計測

避難訓練



おひさま組(5歳)スイカ収穫

“甘くておいしいスイカが食べられるように”と願いを込めて苗を植え、交代で水やりをしてきました。その甲斐あって綺麗な黄色の花が咲きました。受粉が難しいスイカですが、プランターで育てていた甘夏に卵を産むためアゲハが飛来し、スイカの花にも止まることで受粉を助けてくれました。無事にスイカの実がなると、子どもたちも驚きと喜びを感じていました。やがてスイカの実もぐんぐんと膨らみ、先日ついに収穫の日を迎えました。果たして中身がしっかり赤くなっているのかとドキドキしていた子どもたちでしたが、目の前で栄養士がスイカを切り、中を見てみると…見事な赤色になっていて歓声が上がりました。みんなで味わうと、その甘さに驚き「甘いね、お店のみたい」と喜ぶ子どもたち。苗植えから収穫までを経験し、達成感も感じる事ができたようです。



保健室より

園では空調の調節や水分補給をしながら熱中症対策を行い、子どもの健康管理をしています。夏場は「夏かぜ」が多くなります。その代表が手足口病、ヘルパンギーナ、プール熱でいずれもウイルスによるものです。夏かぜの多くは、ウイルスが腸管内で増殖することが多く、肛門からウイルスが排出されます。下痢をしている時は、プールや水遊びは控えるようにしましょう。夏かぜには、治療薬やワクチンはありません。日頃から手洗い・うがいと生活リズムを整えて元気に過ごしましょう。



水遊び・プールの様子を紹介します



もも組（0歳児）

『 すごーい、きもちいいね！ 』

タライの中に水が入っているのを見ると早速手を入れてパシャパシャと嬉しそうに水面を叩いて遊び出す子どももいれば、少し緊張した表情でその様子をしばらくじっと見つめている子どももいました。友達が楽しそうに遊んでいる様子を見ているうちにそっとタライの中に手を伸ばし“あっ、つめたい”“きもちいい”と感じたようでパシャパシャと水を軽く叩き始めました。保育士が「すごーい、きもちいいね！」と思わず声をかけるとその言葉を聞いていた子どもがパチパチと手を叩き始めました。すると他の子どもも一緒になって拍手をし始め、みんなで喜び合いました。今では皆すっかり水しぶきが顔にかかっても平気で水面を叩いたり、容器で水をすくったりこぼしたりするのに夢中なほど、水にも慣れ水遊びが大好きになりました。これからも心地良い水の感触を沢山味わいながら楽しんでいきます。



たんぽぽ組（1歳児）

『 水って・・・？ 』

タライいっぱいの水を目の前にすると、手を入れて水の感触を確かめています。保育士がタライの水をかき混ぜ水流ができると“なんだこれは？”というように不思議そうに眺めながら水にそっと触れ、違った感触に笑っています。今度は保育士の真似をして自分でかき混ぜてみました。すると勢いで水がタライからこぼれ落ちてしまいましたが、その様子も楽しくてどんどんダイナミックになっています。それぞれのタライを回りながら「つめたい」「あったかい」と水温が違うことに気づいた子どももいました。「本当だ、こっちは冷たくて気持ちがいいね」と声をかけると自分のお気に入りのタライを見つけて、そこでじっくりと容器に移し替えて遊ぶ姿も見られています。子どもたちが水に触れながら様々な事に気づいたり、不思議だなと感じた思いを見逃さず、その気持ちに共感しながら水遊びを一緒に楽しんでいきます。



ほし組（3歳児）

『 プール、楽しいね 』

プールに入り自分の体に水をかけ、ゆっくりお腹まで水の中に入ってみると「冷たーい」「気持ちいいね」と保育士や友達と笑い合っています。少し緊張していた子どもも「大丈夫だよ、一緒にやってみよう」と保育士がそばに行くとゆっくり水の中に入り笑顔になっていました。プールでは、アヒルやワニなど動物になりきって水の中を歩きます。はじめは顔にかかったり、肩まで水に入れなかった子どもも少しずつ水に慣れてきて、お腹まで水に入ってアヒル歩きをしたり、肩まで入ってワニ泳ぎをしたりしています。今では水のかけ合いをするほど思い切りプールを楽しんでいます。これからも、プールや水遊びの楽しさに共感したり、「水に顔をつけてみたい」など“やってみたい”という挑戦の気持ちに寄り添いながら、プール遊びを楽しんでいきたいと思ひます。

